

平成26年11月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年10月2日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 エスプール
 コード番号 2471 URL <http://www.spool.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部担当
 四半期報告書提出予定日 平成26年10月10日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 浦上 壮平
 (氏名) 佐藤 英朗

TEL 03-3517-6633

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年11月期第3四半期の連結業績(平成25年12月1日～平成26年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年11月期第3四半期	4,849	22.6	155	179.9	147	232.3	121	251.3
25年11月期第3四半期	3,953	6.2	55	85.1	44	120.5	34	508.8

(注) 包括利益 26年11月期第3四半期 121百万円 (248.0%) 25年11月期第3四半期 34百万円 (514.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年11月期第3四半期	44.10	—
25年11月期第3四半期	13.41	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年11月期第3四半期	2,001	588	29.3	204.36
25年11月期	1,508	188	12.4	72.70

(参考) 自己資本 26年11月期第3四半期 587百万円 25年11月期 187百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年11月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年11月期	—	0.00	—		
26年11月期(予想)				10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 平成26年11月期の連結業績予想(平成25年12月1日～平成26年11月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,000	11.8	150	127.6	137	180.3	117	161.7	41.76

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

業績予想に変更はありませんが、新株予約権の行使によって発行済株式数が増加しております。上表の1株当たり当期純利益は、本日までの発行済株式数の増加を反映した期中平均株式数により算定しております。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年11月期3Q	2,873,400 株	25年11月期	2,583,400 株
② 期末自己株式数	26年11月期3Q	24 株	25年11月期	— 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年11月期3Q	2,758,801 株	25年11月期3Q	2,583,400 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P2「当四半期決算に関する定性的情報」をご覧ください。

・なお、四半期決算補足説明資料につきましては、本日(平成26年10月2日)、当社ホームページに掲載予定であります。

・当社では、個人投資家の皆様向けに適宜、事業・業績に関する説明会を開催しています。開催の予定等については、当社ホームページをご確認ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、デフレ脱却に向けた政府及び日本銀行の財政・金融政策等より株高・円安基調が継続しており、企業収益は大きく改善し、個人消費にも拡大の動きが見られます。消費税増税の影響による一時的な減速は見られるものの、国内景気は概ね持ち直しの動きが続いております。雇用情勢についても、このような国内景気の緩やかな回復を背景に改善傾向にあり、厚生労働省が発表した平成26年8月の全国の有効求人倍率は1.10倍と、およそ22年ぶりの高水準となっております。幅広い業種で求人が増加し、特に建設業やサービス業においては人材不足感が強まっております。

このような環境の下、当社グループは、当連結会計年度の事業方針である、赤字・先行投資サービスの早期収益化と主力サービスの積極拡大の2点に絞って事業を推進してまいりました。特に主力の3サービス（人材派遣サービス、ロジスティクスアウトソーシングサービス、障がい者雇用支援サービス）については、前述の通り景気回復に伴って労働市場の需給が逼迫しているため人材派遣を中心に需要が好調に推移し、順調に拡大しました。一方、赤字・先行投資サービスの早期収益化については、スマートメーター関連の業務が拡大し、収益貢献することとなりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、4,849,077千円（前年同四半期比22.6%増）、営業利益は155,301千円（前年同四半期比179.9%増）、経常利益は147,696千円（前年同四半期比232.3%増）、四半期純利益は121,663千円（前年同四半期比251.3%増）となりました。

平成26年11月期 第3四半期連結累計期間 連結業績

(単位：千円)	平成25年11月期 第3四半期	平成26年11月期 第3四半期	増減率
売上高	3,953,649	4,849,077	22.6%
営業利益	55,485	155,301	179.9%
経常利益	44,452	147,696	232.3%
四半期純利益	34,634	121,663	251.3%

当第3四半期連結累計期間のセグメント業績（セグメント間内部取引消去前）は以下のとおりであります。

①ビジネスソリューション事業

株式会社エスプールロジスティクスにてロジスティクスアウトソーシングのサービスを、株式会社エスプールプラスにて障がい者雇用支援サービス及び付随する農園運営事業を、株式会社エスプールエコロジーにてフィールド調査アウトソーシングを、株式会社エスプールにてマーチャンダイジング及び顧問派遣等のサービスを提供しています。

なお、平成25年12月1日を効力発生日として、会社分割（簡易新設分割）により新たに連結子会社である株式会社エスプールロジスティクスを設立し、株式会社エスプールのロジスティクスアウトソーシング事業を承継しております。

当第3四半期連結累計期間においては、主力の障がい者雇用支援サービスとフィールド調査ア

ウトソーシングがともに順調に拡大しました。障がい者雇用支援サービスにおいては、新規に開設した第二農園への参画企業が計画を上回るペースで増加している他、就労移行支援施設の稼働率と同施設からの就職支援も増加しました。また、フィールド調査アウトソーシングにおいては、電力会社が推進するスマートメーター関連業務が大きく増加しました。一方、損益面においては、ロジスティクスアウトソーシングにおいて新規立ち上げ現場の影響で利益率が低下したものの、その他のサービスの増収効果により増益を達成しております。その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,962,433千円（前年同四半期比25.9%増）、営業利益は195,665千円（前年同四半期比42.2%増）となりました。

②人材ソリューション事業

株式会社エスプールヒューマンソリューションズにおいて、人材派遣、人材紹介等、人材に係わるサービスを提供しています。

当第3四半期連結累計期間においては、主力の携帯電話販売業務において、キャンペーン業務の積極的な受託やグループ型派遣の推進等により、売上が大きく増加しました。また、コールセンター業務においては、定着率向上のための様々な施策を行い、受注が増加しました。人材の採用市場は依然として逼迫しておりますが、受託業務の長期化を推し進めたため、売上高総利益率は低下したものの売上高販管費比率を大幅に引き下げることができました。その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は2,954,689千円（前年同四半期比18.6%増）、営業利益は239,667千円（前年同四半期比22.3%増）となりました。

平成26年11月期 第3四半期連結累計期間 セグメント別業績

売上高（単位：千円）	平成25年11月期 第3四半期	平成26年11月期 第3四半期	増減率
報告セグメント	4,050,574	4,917,122	21.4%
ビジネスソリューション事業	1,559,244	1,962,433	25.9%
人材ソリューション事業	2,491,330	2,954,689	18.6%
調整額	△96,925	△68,044	－%
合計	3,953,649	4,849,077	22.6%

営業利益（単位：千円）	平成25年11月期 第3四半期	平成26年11月期 第3四半期	増減率
報告セグメント	333,597	435,333	30.5%
ビジネスソリューション事業	137,561	195,665	42.2%
人材ソリューション事業	196,036	239,667	22.3%
調整額	△278,121	△280,031	－%
合計	55,485	155,301	179.9%

(2) 財政状態に関する説明

①資産

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末から493,423千円増加(32.7%増)し、2,001,938千円となりました。当第3四半期連結累計期間においては、新株予約権の行使や長期借入金の新規借入によって現金及び預金が増加するとともに、売上の拡大に伴って受取手形及び売掛金が増加したため、流動資産が363,962千円増加しました。また、株式会社エスプールプラスにおいて第二農園の建設を進めていること、及び、グループの基幹業務システムの更新により、固定資産が129,461千円増加しております。

②負債

当第3四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末から93,033千円増加(7.0%増)し、1,413,263千円となりました。当第3四半期連結累計期間においては、短期借入金が約定弁済によって減少したものの、未払消費税等、未払金の増加等によって流動負債が67,958千円増加しました。また、長期借入金の新規借入により固定負債は25,074千円増加しております。

③純資産

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末から400,390千円増加(212.7%増)し、588,675千円となりました。これは、主に新株予約権の行使による資本金及び資本剰余金の増加並びに当第3四半期連結累計期間の四半期純利益によるものであります。この結果、自己資本比率は前連結会計年度末の12.4%から16.9ポイント改善して29.3%になりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年1月15日に公表いたしました平成26年11月期の通期連結業績予想について、変更はありません。

なお、当社グループの当期の業績は営業利益等が第3四半期において通期の連結業績予想を上回って堅調に推移し、本日までのところ第4四半期においても同様に推移しており、通期の連結業績予想を上回る見込みです。

今後、このまま業績が堅調に推移し業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに公表いたします。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	486,426	780,056
受取手形及び売掛金	645,315	708,612
商品	6,500	6,364
仕掛品	—	154
その他	107,170	115,502
貸倒引当金	△9,779	△11,094
流動資産合計	1,235,632	1,599,595
固定資産		
有形固定資産	167,104	268,773
無形固定資産	12,797	41,396
投資その他の資産		
その他	119,436	126,436
貸倒引当金	△26,457	△34,263
投資その他の資産合計	92,979	92,173
固定資産合計	272,881	402,343
資産合計	1,508,514	2,001,938
負債の部		
流動負債		
買掛金	115,128	87,235
短期借入金	476,400	410,000
1年内償還予定の社債	20,000	—
1年内返済予定の長期借入金	72,364	83,604
未払法人税等	15,288	29,120
未払費用	286,118	296,845
賞与引当金	13,780	17,323
その他	188,655	331,565
流動負債合計	1,187,735	1,255,694
固定負債		
長期借入金	98,460	123,917
資産除去債務	26,078	26,284
その他	7,956	7,367
固定負債合計	132,494	157,568
負債合計	1,320,229	1,413,263
純資産の部		
株主資本		
資本金	150,000	288,881
資本剰余金	—	138,881
利益剰余金	37,363	159,026
自己株式	—	△20
株主資本合計	187,363	586,767
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	438	438
その他の包括利益累計額合計	438	438
新株予約権	482	1,468
純資産合計	188,285	588,675
負債純資産合計	1,508,514	2,001,938

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年12月1日 至 平成25年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年12月1日 至 平成26年8月31日)
売上高	3,953,649	4,849,077
売上原価	2,936,181	3,650,337
売上総利益	1,017,467	1,198,739
販売費及び一般管理費	961,982	1,043,438
営業利益	55,485	155,301
営業外収益		
受取利息	220	249
還付消費税等	597	1,358
受取保険料	—	4,011
その他	472	477
営業外収益合計	1,289	6,097
営業外費用		
支払利息	10,803	10,279
社債利息	748	135
持分法による投資損失	70	2,143
その他	700	1,144
営業外費用合計	12,322	13,703
経常利益	44,452	147,696
特別損失		
固定資産除却損	—	288
特別損失合計	—	288
税金等調整前四半期純利益	44,452	147,407
法人税、住民税及び事業税	12,217	33,376
法人税等調整額	△2,399	△7,632
法人税等合計	9,818	25,744
少数株主損益調整前四半期純利益	34,634	121,663
四半期純利益	34,634	121,663

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年12月1日 至平成25年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年12月1日 至平成26年8月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	34,634	121,663
その他の包括利益		
持分法適用会社に対する持分相当額	330	—
その他の包括利益合計	330	—
四半期包括利益	34,964	121,663
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	34,964	121,663
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、当第3四半期連結累計期間において、新株予約権の行使に伴い、資本金が138,881千円、資本剰余金が138,881千円、それぞれ増加しております。これにより、当第3四半期連結会計期間末の資本金が288,881千円、資本剰余金が138,881千円、発行済株式数が2,873,400株となっております。

(セグメント情報等)

前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年12月1日 至 平成25年8月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ビジネスソリューション事業	人材ソリューション事業	計		
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	1,548,796	2,404,853	3,953,649	—	3,953,649
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	10,448	86,477	96,925	△96,925	—
計	1,559,244	2,491,330	4,050,574	△96,925	3,953,649
セグメント利益	137,561	196,036	333,597	△278,112	55,485

(注) 1. セグメント利益の調整額△278,112千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△278,954千円及びセグメント間取引消去842千円であります。全社費用は、当社の管理部門に係わる費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年12月1日 至 平成26年8月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ビジネスソリューション事業	人材ソリューション事業	計		
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	1,946,717	2,902,360	4,849,077	—	4,849,077
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	15,716	52,328	68,044	△68,044	—
計	1,962,433	2,954,689	4,917,122	△68,044	4,849,077
セグメント利益	195,665	239,667	435,333	△280,031	155,301

(注) 1. セグメント利益の調整額△280,031千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△279,387千円及びセグメント間取引消去△644千円であります。全社費用は、当社の管理部門に係わる費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

(新株予約権の行使による増資)

当第3四半期連結会計期間終了後、平成26年10月1日に、平成25年12月16日に発行した新株予約権のうち、第3四半期連結会計期間末に残存していた新株予約権のすべて(130個)について権利行使がありました。当該権利行使の概要は次のとおりであります。

(1)発行した株式の種類及び株式数	普通株式 130,000株
(2)増加した資本金	62,257千円
(3)増加した資本準備金	62,257千円
(4)資金使途	子会社である株式会社エスプールプラスが展開する障がい者雇用支援サービスのための農園用地取得及び建設のための資金並びに人材派遣等の事業の取得のための資金